

瑞岩寺報

2010.08.01
(平成22年 葉月)

●お盆号

……………瑞岩寺にお墓のある方へ……………

お墓のお掃除について

【日時】 8月1日(日)

【時間】 午前6時頃から

お盆が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お盆前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

※強制ではありません。この日この時間でないといけないということではありません。

※自分のお墓の掃除が終わったら通路など共有

の場所のお掃除も積極的にお願います。
※遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心ください。
※飲み物を用意してあります。



お盆のご案内

お盆法要

今年のお盆法要は左記の通り行なわれます。昨年とは時間が異なります。ご注意ください。

【期日】 8月7日(土)

【時間】 午後2時～

【お盆の供養料】

▼先祖供養塔婆 5,000円

▼新盆供養塔婆 10,000円

【内容】 檀信徒すべての精霊のお盆法要をします。

▼新盆塔婆供養

▼先祖塔婆供養

▼『般若心経』

▼御詠歌

※法要後、お塔婆をお持ち帰りください。

※粗品を用意してまいります。必ず出欠席のハガキを返送ください。

お盆参り

【期日】 8月4日(水)～8月12日(木)

昨年より始めました各家へのお盆のお参りはお盆法要終了後から開始します。4日から12日まで、副住職が早朝から夜まで約320軒の檀家まで

8月お盆参り予定日程 ※多少変更される場合もあります

4日(水)	太田市外(群馬県外・前橋館林地区)
5日(木)	太田市外(足利・桐生地区)
6日(金)	太田市内(太田地区)
8日(日)	萩原地区・その他
9日(月)	七日市・落内・唐沢地区
10日(火)	丸山・清水・反丸地区
11日(水)	矢田堀地区
12日(木)	矢田堀地区

【時間】 早朝=6:00am～9:00am / 午前=9:00am～12:00pm
午後=12:00pm～3:00pm / 夕方=3:00pm～6:00pm

Attention!! ※以下の点にご留意ください

●お盆法要について

お盆供養塔婆について、「必要」・「不要」を返信ハガキに記入してください。「必要」の場合はお盆法要に「出席」・「欠席」も記入してください。

「必要」で「欠席」の場合は、必ず8月7日以降に塔婆を受け取りにお出でください。

塔婆供養料の振込み用紙を同封します。毛里田地域の方は世話人さんにお渡しください。お寺に直接こられない方は同封の振込用紙をお使いください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

●お盆参りについて

お盆参りについて「必要」・「不要」をハガキに記入してください。「必要」と記入されたお宅には、8月初めにお参りします。

「不要」ならびに「返信なし」の場合はお参りには伺いません。

※『必要』だが、日時が合わない』という方は、希望日をお書きのうえ、必ず期日までに返送ください。調整いたします。

※返信期日は7月30日(必着)です。期日までに必ずお送りください。その結果により順番を決め、お参りします。

●永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ

『永遠のいのち』永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、永代供養のお約束ですので瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

●ペット供養墓関係者の方へ

ペットの合同供養は左記の通り行なわれます。

【日時】 8月7日(土) 午前10時より

【お盆のペット供養料】 4,000円

※強制ではありませんので、ご供養してあげたい方のみご参加ください。

うつ病を体験して……

●小川宏

アナウンサーとしてNHKを皮切りに、フリーとなり、広くテレビ・ラジオに、また講演会や執筆などで活躍の小川宏さんをこの秋、当瑞岩寺にお迎えします。

うつ病は、誰がかかってもおかしくない現代病。「何かおかしいと感じたときは、迷わず専門医（神経科、精神科、心療内科）の門をたたいてください。」

私のうつ病は、平成3年、今から19年前の初冬、いつもと違う倦怠感を感じました。「だるさ×1000倍」くらいのだるさなのです。それから不眠。ちょっと寝るとすぐに起きる、という感じ。生活エネルギーが全部奪われたような感じで、車であれば、ガソリンが全くない状態です。旧姓中学時代の親友が日本医科大学の放射線科の教授をしていて、調子が悪ければ診てあげるからというので、行きました。体を調べても糖尿病以外は、悪いところはなかったのです。たぶん心の病だということです。生きていくのが嫌になり、年が明け、平成4年1月31日、妻宛てに遺言を書きました。「生きていく自信がない。今までお世話になってありがとうございます。先に逝く身勝手を許して欲しい」というようなことを書いて渡しました。妻はそれを読んで「文章はしっかりしていますが、ハンコを押していないから認めません」と言ったのです。ハンコのことを「認め」といいますね。妻は洒落で言ったのですが、私には通じず、妻にも見捨てられた気がしました。暗黒の日々が続きました。家庭医学書を5冊も買って、部屋にこもって「ガンじゃないか」「エイズじゃないか」などと読むわけです。それを見た妻が「そんなことを

しているのは気が滅入るばかり」とその5冊の医学書をどこかに持って行ったのです。参りました。だんだん自殺願望がでてきて、平成4年3月16日月曜日、早朝4時に目が覚め「今日私は消えよう」と思い、家族が寝ているのを確認して新しい服に着替えて、家を出たのが5時半頃でした。歩いて数分のあるところにある私鉄の路線の横に立ちました。通る電車を「1本、2本…」と数え、13本目の電車が来た時に「あれに飛び込もう」と思いました。しかし、近づいてくると、恐怖が出てきて目をつぶりました。すると、目の前に、家族と親友の顔がオーバラップして映画のワンシーンのようにパッと出てきて、パッと消えました。時間的には0.05秒くらいでしようか。一瞬です。そして、ワイドショーの司会をしていた頃、自殺がらみのニュースを伝えていた時に、山谷親平さんが耳にたこができるくらいおっしゃっていたことば、「自殺は愚か者の結論なり」が浮かんできました。そのふたつのごとで、出した右足をパッと引込めた瞬間に、私の目の前を電車が通り過ぎました。そうしたら、立っていることもできなくなって、地面に伏せてしまったのです。しばらくそのまま動けませんでした。やっこの思いで起



き上がって家に戻ると、門の前に妻が真っ青な顔をして立っていました。「どうしたの」というので説明すると、大変だから病院にいきましようということになりました。

仕事をキャンセルして入院する

病院では問診を受けました。合計1時間20分ほどかかりました。もうクタクタになりました。自殺を凶ったというので即刻入院と言われました。病名を聞くと「うつ病」と言われましたが、よくわかりませんでした。1週間後に仕事が入っており、入院を伸ばして欲しいというと「私の責任においてそれは駄目です」と言われました。それで

仕事はキャンセルして入院しました。入院の際にドクターから「この病気は個人差はありますが、

完治します。何も考えず、自然体でベッドに横になってください。1ヵ月くらい経過すると、ほとんどの患者さんは症状が重くなったようになりませんが、治っていく通過点ですから心配いりませぬ」といわれました。妻に対しても「励ましの言葉は厳禁です」と言われました。親友に「元氣出せよ」と肩を叩かれた時に、袋小路に追い込まれたような気持ちになったことがありました。7階の病院に入院しましたが、その窓には美しくデザインされた鉄格子がありました。「以前に飛び降りて亡くなった人がいるので、鉄格子はおいやでしょうが、がまんしてください」と言われましたが、いやだと思いうちもありませんでした。

1ヵ月経った頃、言われたように、症状が重くなったように感じられました。通過点だと自分に言い聞かせました。その頃、親友のT君から手

春彼岸会法用 — 酒井大岳先生法話より —



酒井大岳 (さかい・だいがく)

昭和 10 年群馬県生まれ。
駒澤大学仏教学部禅学科卒。
群馬県立吾妻高等学校で 30 余年講師を務める。
現在、曹洞宗長徳寺住職。南無の会会友。
日本ネパール友好協会顧問。ナマステ・ネパールの会会長。
上州みすゞ会主幹
昭和 58 年『般若心経を生きる』上毛出版文化賞受賞
平成 11 年日本社会文化功労賞受賞

【著書】

- 「金子みすゞの詩と仏教」(大法輪閣)
- 「傑僧説法ビジネスに響く百八のことだま」(日経 BP 社)
- 「仏教に学ぶ生き方」(彌生書房)
- 「あったかい仏教—道元禅師の修証義にきく」(大法輪閣)
- 「生き抜く力禅のこぼれ—悲風逆風どんとこい」(清流出版)
- 「りんりんと生きる」(家の光協会)

今年より春彼岸のお中日の 10 時より本堂で今年一年間の年回忌にあたる方々の合同法要を行うことになりました。これは、忙しくて忘れてしまうことがあったり、沢山の知り合いに声をかけて大きくはしないけど、家族だけで供養したいという方々の願いから生まれました。

50 名以上の方が参加され、今回は「仏教を学び親しむ」ことを目指して、吾妻郡長徳寺住職酒井大岳先生に『さわやかに生きる』と題して講演いただきました。

講演は「あったかいのち」「悲風を超えて」「明るく生きる」「与えて生きる」「語るより歩む」と 5 つに分けてこの苦しい現代をいかに「さわやかに生きるのか」お話しいただきました。

先生は沢山の著書、法話録、DVD、俳句集などを出版され、またご自身でもネ

パールに学校を寄付されるなど、さまざまの活動をしています。

年をとっても暗く考えずに、「後期高齢者」を「高貴高齢者」ととらえ、冗談や洒落、考え方をちょっと変えることで毎日「ワッハッハ」とにややかに笑える雰囲気づくりが大切である。先祖供養だけにとどまらず、もっとも広く考えたとしたらこの周りには草花、動物、植物、生きとし生けるものすべてが関わって私が生きていく。関係ないものなどこれひとつもない。有縁無縁三界(さんがい)万霊すべてに感謝する気持ちを養うことがさわやかに生きるコツと話されました。

また、あなたの周りにいる人がいつあなたの命の恩人になるか知れない。だからこそ周りの人すべてを大事に大切にしないといけないと説かれました。

紙が届きました。「自分もかつて重いうつ病にかかったことがある。おそろしく今、一番『辛』いだろ。あと一息で『幸』になる」と書いてありました。処方箋にはない薬のような感じがしました。ありがとうございました。

おかしいと思ったら病院へ

うつ病には目安があり、世界で統一されているそうです。倦怠感、不眠、食欲不振、体重減少、自殺願望など 5 項目以上が 2 週間以上続いたら、まずうつ病とみて差し支えないようです。その場合は、内科に行くより、神経科、精神科、心療内科といった専門医に行くことが早道です。

厚生労働省が、うつ病の患者が 100 万人を超えたと発表しましたが、これは実際に病院に行っている数であり、行かない人もずいぶんいるそうです。おそろしく 5〜6 倍はいるだろうと言っていますので、500 万人、600 万人という患者がいるということになります。死にたい、は SOS 信号を出しているのです。冗談と思いがちですが、注意しなくては行けません。自殺者は、必ずサインを出すそうです。またそのような人は親しい人に愚痴をいいます。よく聴いてあげることが大事です。

「命は地球よりも重い」というのは、京都の嵯峨天龍寺の管長だった関牧翁(せきぼくおうち)という方から伺いました。また、先輩に教えてもらったのですが、山形県酒田出身の吉野弘という詩人がいます。この吉野さんの作品に、「祝婚歌」という詩があり、この詩を読むと、人間関係を円滑にするとともに全て昇華するような気がしますので、紹介します。

祝婚歌

二人が睦まじくいるためには愚かであるほうがいい
立派すぎないほうがいい
立派すぎることば
長持ちしないことばと気づくべきは

完璧をめざさないほうがいい
完璧なんて不自然なことだと
うそづいていけるほうがいい
二人のうちどちらかが
ふざけているほうがいい
ずっつけていけるほうがいい
互いに非難することがあっても
非難できる資格が自分にあつたかどうか
あとで疑わしくなるほうがいい
正しいことを言うときは
少し控えめにするほうがいい
正しいことを言うときは
相手を傷つけやすいものだと
気づいていけるほうがいい
立派でありたいとか
正しくありたいとかいう
無理な緊張には
色目を使わず
ゆったりゆたかに
光を浴びているほうがいい

◆インタビュー

中島啓江さんに聞く

—9月のライブにむけて

千の風になってとの出会い

副住職◆ 今日インタビューに応じていただきまして誠にありがとうございます。瑞岩寺でも中島さんの「千の風」「涙やまらぬ川の流れのように」「この街を」を葬儀式または法要で頻繁に使わせて頂いております。私自身も大ファンで本日お会いできて大変光栄です。

中島さんの歌声には他の『千の風になって』を歌われている方にならない、独特な何か想いみたいなものを感じますが、いかがでしょうか？

中島啓江◆ 私は作曲者の新井満さんを尊重してあまり違わないように歌っていたんですけども、満さん曰へ、「私のお母さんみたいだ。自分の母親を想いだす」といわれました。聴く人は自分のお母さんを想いだされているのかも知れません。

実は私自身もこの『千の風になって』と出会う前は、本当にいなくなってしまう人を想うと辛かったり、悲しかったり…。人のことを励ますつもりで歌っていたのに、元気にならない自分がありました。一番辛かったのは今から10年以上前

に急に亡くなってしまった母の存在でした。母が亡くなったということも最初の2年くらいは信じられなくて、洋服屋に行っても母の洋服を買ってしまふほどでした。反対に洋服屋のおばさんに泣かれたほどです。今まで日課だったことが突然なくなってしまうわけですね。毎月命日にはお墓にお参りして、母に新しいCDのことや、いろんなことを報告していました。

でも、この『千の風になって』と出会って、私自身がこれほど励まされるとは思わなかったんです。人を励ますために歌っているのに、結局、自分自身を励めたり、励ましたりしていると感じました。

実は私がこの『千の風になって』の曲と出会ったのは、偶然なんです。たまたま一緒にやっていた広島交響楽団のバイオリニストの弟さんが亡くなられたときに、共演者のひとりがこの『千の風になって』の朗読をどこかで聞いて、とても心が癒された、だからこの曲を啓江さんの声でどうか歌ってくださいと言われ、それでは譜面を送ってくださいと言って帰ったんです。

それから一週間もたないうちに、別の知り合いの方からも、亡くなられたお母さんの癒しのた

めにと、この曲を推薦するメールが届きました。そしてファンのひとりからも、この曲の気持ちが今一番わかる啓江さんにどうしても歌って欲しいとたて続けに言われました。

そうこうするうちに楽譜よりも早く新井さんのCDが手許に届きました。それをスタッフ全員で聞きましたが、全員が泣きました。私はもう数えきれないくらい泣きました。もうすごかったです。普通泣くと涙を拭きますが、そのときは拭くのがもったいないという感じでした。この詩とメロディがあまりにも素晴らしかったからです。1カ月後のバースデイ・コンサートに歌おうと決めたのですが、歌う度に泣いてしまつて歌えませんでした。でも、そのうちに、天国の母が「啓江、あんたいつまでも泣いてんじゃないよ。早く笑顔になって元気な姿をお墓に見せにきてちょうだいよ。」って言っているような…。言われないんですよ、母に…。一番大切な人を亡くしたあとに聞きたい言葉は、どこか遠くからでもいいから「啓江、もう泣くなよ。」っていう言葉だと思うんです。それが歌っているうちにわかって、すごく元気になれたんです。私はこれを乗り越えて、10年以上も泣いている自分を早く卒業しなきゃいけないと思っただんです。

感謝の気持ちを伝えたい

だからこの曲は私が歌わなきゃいけないと思っただけで、私にとっては大ヒットなんです。この曲は、それぞれの人の悩みや悲しみが癒されて欲しいという名曲のひとつ。それが『伝えたい』というシリーズの第一番になりました。女性が歌ったのは私が最初らしいのですが、この歌を通し



て、私の生まれて来た理由、私のやるべきことが分かったような気がしたんです。

母から教わったこと、母が生きて延びてきた時代、日本が生きて来た時代、女性が生きていくというところ、それが分かったときに、自分なりの言葉と音楽という方法で伝えていかなければならないと思いました。

1枚目のテーマは「ありがとう・感謝」でした。人を励ましているように実は自分が励まされていた。周りのすべての人に感謝という想いでいっぱいでした。この「伝えたい」シリーズは10枚まで行こうと思っっています。もしかすると私が生きている限り作りつづけるべきかも知れませんが、名曲が沢山あります（笑）。

私が童謡コーラスを始めたのもそういう理由な

んです。もし、私の母がいたら、もし母がひとりぼっちだったら家の中にひとりでおかない。沢山の人が集まる中にいれてあげたい。あなたが寂しい顔をしていたら、周りも寂しくなる。あなたが笑顔になれば、周りも笑顔になる。その人たちが地域に帰っていったら地域の人も笑顔になれる。もしかしたら、日本全国が明るくなるかも知れませんよ。

私は宗教家でも政治家でもないのです、私のできることは音楽を通してみなさまになにかを伝えるということです。

不思議なんですけど、言葉、音楽というのは、「霊(たましい)」をつけるんです。「言葉(ことば)」「音霊(おとだま)」と違って感じるものであったり、霊(たましい)というのはそういうものなんだなあって思うと、「あっ！ 風になったんだなあ」って胸を張って、「風になってるんだから、星になってるんだから、もしかしたら鳥になってるかもしれない」って。だから、万物の霊を大切にあげて欲しいなっていう気持ちになります。

古来からの手を合わせるという『ありがたい』という気持ち、人間がもったこの両手、それを合わせるこの愛おしさや温もり、自分で自分の温もりが分かるのって、この手のひらかなと思ったとき、自然に合掌してしまうんです。

魂のキャッチボール

副住職◆◆中島さんも音楽を通じて変化がありましたか？

中島啓江◆◆変わりましたね。一緒に生きていくという感じですね。言葉とともに。その人にな

にか語りかける、私の場合はメロディがついていますが、でも私のコンサートは「歌りべ」と言われてますけど、「歌」と「語りべ」が入っている。私の場合は自然と言葉がでてくる。胸がつまみたり、トーンが上がってみたり、抑えてゆっくり伝えてみたり、一人の私の言葉が1000人、1000人の魂(たましい)とのキャッチボールだと感じられるようになりました。今まで歌に苦しんでいたこともあるんですが、なんか不思議なきっかけて自分の目が開いたとき、すごく歌が楽になりました。

実は永六輔さんの『生きるものの歌』がなかなか歌えなかったんです。重くて重くて歌えないんです。これは自分がしてもらったことに対する感謝、軽い気持ちの感謝では、自分がつらいときにあの人が助けてくれたという心の底からの気持ち

ち、フツと湧いてでてくるような、そんな気持ちにさせてくれるのがこの『生きるものの歌』だったんです。「人は必ず死にます」という永さんのセリフの出だしなんです。「人はいつか別れる、殺されなくてもいのちは終る」それがとても重かったんです。

私は母の葬式のとときに、手と手を合わせることで人の輪廻を表しているような気がしたんです。生まれてきて…、死んで…、また生まれて来て…。右手から左手へ、そしてまた右手から左手へ、それが重なる場所が合掌の手のひら。

私の信じることは、悲しいときは泣いて下さ、楽しいときは笑ってください、涙は神様がくれた、とても大切なプレゼントだからということなんです。

でも、実際私、母がなくなったときには涙はで



なかったんです。涙がでない自分が悔しかったんです。でも、それは大きな悲しみを抱えて、辛くて苦しかったからなんです。たまたま、お通夜の晩のスケジュールが空いていたんですね。その通夜の直前トイレの中で泣けたんです。子どもが泣くようにワンワン泣いたんです。母の妹である叔母さんに声をかけられてフツと我に返ったんです。声が母そっくりなんです。実は、叔母はガンだったんです。だから、よく分かったんですよ。人間ってすごく短い人生なのに、すごく深いドラマがあるって。一日24時間っていても生き方次第でどれほど大切な一日になるか。一番大切な人が死んだことによって人生観がすごく変わってきました。突然、自分がいい人になるのではなくなって、普段の自分でいつもと変わらず、ただ、人のことでも涙が流せる自分でいられたらいいなってそう思いながら歌っています。

だから、新井満さんの歌も、私にとって今が一番いい時期なのかも知れません。私の場合、曲ひとつを語るにしても、すべての曲が思いの強い曲なので、自分の人生を語るようにのめり込んでいます。アルバムの中の曲も、多くの人のリクエストをいただいたり、決して一人で作っているのではありません。名曲のひとつひとつに長い歴史があり、多くの作詞家、作曲家のみなさんの想いがあります。そして、私にはそのことへの尊敬の念があります。CD1枚作るのは大変なことです。CDは自分の子どものような気持ちなんです。私の子どもはみな2000円なんです(笑)。沢山の人の聞いてもらいたいんです。恩返しのために…。

死んだことを否定するのではなく、全うしたのだと。そして、人がいつまでも語ってくれるよう

ないいい人生を過ごしてもらいたい…。短い人生だからこそ、笑顔の数が多いように。

歌を通じて思うこと

レコーディングでも『千の風になつて』はほんとうに胸が熱くなるような想いで歌いました。これにはちょっとしたエピソードがあるんです。私はチェロの音が好きなんです。チェロの音は女性の声に似ているので、それは絶対にいれたかったです。それは母の声のような気がしたんです。一回通してピアノとチェロでやりました。チェロの人は今まで私の歌を聞いたことがなかったんですね。でも、ノーマリスでもよくできました。だけど、そのチェロの人は、「すみません。もう一度録らせてください。僕は今までいいメロディだなと思って練習してきました。でもここに来て啓江さんの歌声を聞いたら涙が流れて来ちゃって、譜面がよく見えなかった。もしかしたら音階をどこか間違っていて弾いているかもしれない。ちゃんと譜面を見てもう一度弾かせてください。」と言ったんです。私はそれを聞いて、この人はなんていい言葉をくれたんだろうって。言葉が伝わったんだあって。演奏者ってメロディを聞く人が多いなかで、こんなことがあるんだあって。このCDを聴いて元気になってくれた方から手紙をもらったりして、自分をもっと高めなきゃって思うんです。

最初は「私はいいい曲を歌っているのよ」という思いで歌っていました。しかし、今は全く違います。人間って歳を重ねるとすばらしいことになると思っんです。

「私がお墓の中に入れません。」という歌詞があまり

すね。私は霊(たましい)が導かれていく家はあると思っんです。そしてそこで、言葉の霊(たましい)になったり、音の霊(たましい)になったりする。その波動に包み込まれるようになったら、きっと、もっといいだろうと思っながら…。人は皆、何がすばらしいか、すばらしいか、をちゃんと判断できるものだと思います。本当にその人が信じて、好きになって、元気になるれば、それはすばらしいことだと思っています。

ただ、一番大切なものというものを大切にできない、そういう宗教はあってはならないと思っし、憤りを感じます。

私と宗教の出会い、永六輔さんなんです。お坊さんという事は知らずに作詞家として永さんの詩ばかり読んでいたんです。それを歌っていた坂本九さんのバックコーラスを夢見ていたんです。しかし、その夢が叶う間際に九さんが亡くなられたんです。だからこそ、私がこの歌を唱おうという強い想いがあります。それがすごい縁なんです。三木トリー先生に興味がありまして、きっと永さんなら知っているだろうと思っ紹介してもらおうと思っ楽屋を訪ねたんです。そうしたら、私が訪ねるちょうど数時間前に三木先生が亡くなられたんです。「これが何かの縁なのかも知れないね」と言われたんです。

数日後、永さんから連絡があって、「三木さんの音楽葬があるのでちょっとお願いがあるんだよねえ」と。「お経が始ったらキューを出すから、正面からアメイジング・グレイスを唱いながら入ってきて祭壇の前で絶唱してくれないか」と。そうしたら、翌日の新聞一面に私の全身アップの写真が載って三木先生の写真がその横に小さくなってたんです。本当に三木先生すみませんという気

持ちでした。でも、お経と歌ってよく合っんです。驚きました。

生きる力

母が亡くなってからの10年間は、泣き腫らしていた10年間なのに、ほんとうにいろんな出会いがありました。もしかしたら母が呼んでくれたのかなと思っいろいろな人にお会いしました。ありがたいお言葉もたくさんいただきました。多くの人に「ありがとう」と言ってもらえるようになった。」「ありがとう」とは魔法の言葉だと言っているんですけど、自分は歌を唱うのが仕事なのに、「ありがとう」と言われてしまったと嬉しくなるんです。講演後にサインをするのですが、いつも「ありがとう」と言っ書くんですよ。そうしたら、小さい子どもから、「僕がありがとうと言っているのになんか啓江ちゃんがありがとう言っ書くの？」って言われたんです。「だって私のサインもらっくれるからありがとうなんだよ」と言っったんです。そしたら、「ああ、そうか。でも僕はなんて言ったらいいの？」って(笑)。子どもとそんなことがあったりして、本当に有難いです。

私も子ども頃のいじめられたんですが、でも最近いじめられた子が仕返しという形で、自死を選ぶという。自分がいじめられたことで自分が上にいる。自分の死をもっいじめた子の名前を書き記すということ。それは決して仕返しにはならないんだということ。大人たちがいわなきゃいけないと思っます。いのちを救わなきゃいけないですね。

あまり話したくないのですが、思い出すと涙がでてくるので…。でも、生きる力というのは何かって言うと、それは「今生きていること」なんだと思っます。生きているから今がある。

私がいじめっ子に、母が教えてくれた「ありがとう」という言葉を言ったとき、その子が「ごめんなきい」と謝っったんです。その改心が私の子ども時代にはもっよかったと思っます。私はそのいじめっ子のお話を褒めたたえた。謝れるんですよ。すばらしいです。

いじめっ子もいじめられた子も両方抱きしめられたらいいですね。みんなが元気で明るく生き抜けるということは、周りの人への「感謝」があることだと思っんです。だから「ありがとう」という言葉はすごい！と思っんです。母はいつも「すごいんだよ、この言葉は」って教えてくれたいたんです。

私こんな体験の話がみなさんにできたらっと思っています。是非、多くの方にお会いできるよう、今から楽しみにしています。





太田インターより信越、中央高速、淡路島を抜け、四国の徳島県まで約9

4月の10日から21日まで、信徒さんと四国八十八カ所のお遍路に行つてま

通常、四国中のお寺を参拝するわけです。四国で一番高い山の頂上にある

本当は、50日かけて歩きたい気持ちが高ぶっていたのですが、それでは保

時間。極楽寺に到着。2日目より1番

四月の半ばとはいえ、日本列島にまだ寒さが残るなか、高速道路からも

まず驚いたのは、私の想像以上に歩き遍路の多いことでした。

それでも例年より少ないそうですが、200人以上は歩いて

や、ご兄弟、外国人の方も少なくありませんでした。

こんなにくさんの人が、なぜ歩くのでしょうか？

やはり、心を落ち着けて自分を見つめるには、旅は徒歩でなくてはしつ

ぜ徒歩なのか？

私は、①自分の力で、②地に足をつけて、③一歩一歩着実に進むこと、が

大きな挫折を味わえば、人は自信を失います。親を亡くした人、子どもに

もう、自分は立ち直れないのではない

けて前に進むのでしょうか。

お遍路を修行に譬えて徳島県を「発心(菩提の心をおこす)の道場」↓高

お経は意味がわかればそれはそれでありですが、意味がわからなくても

よいと思つていきます。一般の人はお経は今

ていますが、しかし、実はお経は聞いて悲しむものではなく、読んで味わう

それから、何よりも感動できるお経といえ、自分と信徒さんが一緒に大きな

自分が沢山の仏弟子たちと一緒にお釈迦様の説法を聞いているような一体感

そして、87、88カ寺目で結願(けちがん)したときの感動は忘れられませ

いよいよ最後は、高野山の奥の院への参拝。ここは空海大師が未だに修行

奥の院だけは、撮影禁止。お参りの仕方ですべて作法が決まっています。

お遍路はスタンプラリーではありません。お遍路をすることによって自分を癒し、自分を磨き精進させることが

お遍路を終え、少しお遍路の魅力が分かったような気がしました。合掌。

四国八十八カ所 お遍路紀行

家制度の変容が墓を変えた

—多彩なメニュー、自ら選ぶ時代に—

東洋大学教授 ● 井上治代

『週刊朝日』より転載

現代の変わりゆくお墓の流れは、4つのキーワードでくくることが出来ます。「脱継承」「双方化」それに「自然志向」「個人化」です。

これまでのお墓は家が単位でした。「〇〇家の墓」を継承していくことが家族の幸せであり、家族のメンバーである自分の幸せでもありました。

継承が前提ですから、そこに個性が入り込む余地はありません。葬儀や供養も、残された家族に委ねていればよかったです。

ところが高度経済成長が続いて、核家族が主流になると、変化がおきはじめます。親家族と子家族が同居しない。子どもがいない夫婦二人の最晩年は、どちらかが亡くなって「同居」です。それでは家がつながっていかない。

1990年前後から永代供養墓に代表される継承を前提としない「非継続墓」が次々と生まれました。少子高齢化が進み、夫も妻も墓の継承者というケースも多く、夫方、妻方の双方と一緒にまつる「両家墓」も増えました。環境意識の高まりや業者主導の葬送儀礼への反発から、樹木葬や散骨といった自然にかえる葬法も登場しています。

介護機能が外部化されたように、看取りや葬儀、死者の供養といった家族の機能がどんどん衰退していくと、必然的に自分がどう生きどう死んでいくか、「個」が向き合うことになる。90年代以降、「自分らしい葬儀」と「自分」という言葉が頻繁に使われだしたのはこのためです。

まさに「終活」が必要な時代です。「生前墓」や、オリジナルで墓石をデザインする人が出てきているのも、こうした流れです。

お墓の引越越しあり、リフォームあり。いまはメニューが増えて何でもでき、自分で選べる時代です。

たとえば、父が既に他界し、ふるさとに母を一人残して都会にでてきた息子や娘。その母が亡くなったら、ふるさとの墓に入れてあげたいけれど、自分は田舎に帰る気はない。どうしたらいいか。この場合、ふるさとの永代供養墓に母や先祖を入れ、遺骨の一部を持ってくれば、ふるさとに残りたい、でも子どもたちと一緒に墓に入りたいという親の思いを同時にかなえられます。

家族間、世代間で墓に対する考えが違ふ場合は、焦って決着をつける必要はないと思います。親世代の希望は尊重してあげて、自分たちの希望は親たちが亡くなってから考えても遅くない。個を尊重するということは、自分だけでなく相手の希望も尊重することですから、

墓のかたちがどんどん変わる一方、継承する人がいるかぎり、「〇〇家の墓」といった従来型の墓もなくならないでしょう。家族やゆかりのある人と

一緒に墓に入って眠れることに、人が本来感じる心地よさがあります。家の継承システムは変容しても、家族で入れる、そこにゆかりのある人たちが訪ねていける。その良さは変わらなず残っていくはずですよ。

(いのちえ・はるよ) 1950年生まれ。

NPO法人「エンディングセンター」理事長、著書に『墓をめぐる家族論(平凡社)』『より良く死ぬための』(吉波書店) など。

お知らせ

●『あんのん墓苑』完成

墓地の不足と新しい墓地の形を考えた瑞岩寺墓地南側に『あんのん墓苑』が完成しました。このような仕様の墓苑は、群馬県では瑞岩寺だけです。

あんのん墓苑には、「一般墓地区画」「WTC(ペット墓地区画)」、「永代供養墓地区画」とがあります。

「永代供養墓地区画」は、「相続可能型」で、個々の納骨式になつていきます。また、相続する方がいなくなった場合でも、連絡が途絶えて13年後まで瑞岩寺が責任をもって供養します。

契約時の費用は、以下の通りです。

▼一般墓地区画(小区画) 23万円

▼一般墓地区画(普通区画) 42万円

▼WTC(ペット墓地区画) 52万円

▼永代供養墓地区画(相続可能型) 80万円(造成費込)

生前の宗派などは一切問いません。詳しくは、瑞岩寺までお問い合わせ

ください。

●県内初の樹木葬墓地

『木もれ陽(こもれび)』建築中!

瑞岩寺では、宗派を越え、かつ跡継ぎを必要としない、樹木葬墓地「木もれ陽」(個別型永代供養墓)を建設中です。

「木もれ陽」は、最近注目されている自然葬のひとつ、樹木葬のお墓で、墓石などは建立せず、シンボルツリーの周りの芝生に納骨するもので、親子、夫婦での使用も可能(2人まで)です。また、もし継承者がいなくなっても、瑞岩寺が基金運用によつて管理を続け、33回忌または、連絡が途絶えて13年後まで責任をもって供養します。

自然に還る永遠性と、血縁にとどまることなく同じ地に眠る縁ある方々が共に供養しあう共同性。そしてそれを支える瑞岩寺の宗教を形にしたものです。個別の区画は追憶としての最小限の大きさにとどめ、全体として安らぎの空間を大切にしました。

* * *

●墓参の際のお願い

墓参の際、墓前にお供えのお供物はカラスや犬猫などが食荒らし汚れます。佛様は香りとお気持ちのみ頂きますので、お参りが済みましたらお持ち帰り下さるようお願い申し上げます。お団子もできましたら下にアルミホイルを敷いていただく掃除がしやすく衛生的です。

また、古い塔婆はゴミ箱に捨ててはいけません。お寺でお焚き上げを

しますので寺務所へお持ち下さい。

* * *

●悩み事・困り事の相談

悩み事・困り事の相談は無料です。必ず電話(37-1231)にて予約してお越し下さい。相談の内容が外部に漏洩することはありません。

相談時間は午前9時から午後7時まで。夜間・深夜の相談は受けません。

* * *

●祈願・厄除など……

厄年厄除、家内安全、商売繁昌、身体健康、学業成就、安産守護、家族祈願、自動車祈願などを受け付けております。

法要は、毎日12時よりお参りいただけます。

ご供養、ご祈願、ペット供養、水子供養は、電話、ファックス、電子メールなどで受け付けております。

すべての人に佛さまの智慧と慈悲を

宗教法人 **慈眼山 瑞岩寺**

群馬県太田市矢田堀町 388

Tel: 0276-37-1231 / Fax: 0276-37-1729

E-mail: info@zuiganji.com

Website: http://www.zuiganji.com

i-mode: http://www.zuiganji.com/i/

※御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。
※お身体をお大切に、お健やかに暮らしてくださいませ。
み仏さまの御加護を心から祈りいたします。合掌